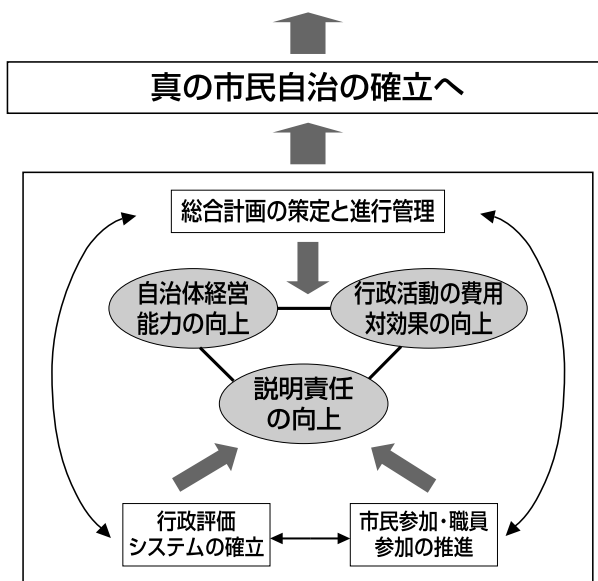


2. 国は権限、財源、情報そして人材を中央に過度に集中させ、全国画一の基準やルールを重視する中央集権型行政の弊害を是正するため、地方の多様性に光をあて個性豊かで活力に満ちた地域社会の形成と、縦割り行政の無駄を省き地域のことはその地方自治体が自主性と自立性をもって運営してゆく**地方分権型社会への移行**を目指しています。

合併はこれから訪れるであろう地方分権型社会に耐えうる力を備えるための受け皿作りとして絶対必要なのです。

地方分権型社会の構築システム

市民ニーズに即した個性あるまちづくりの実現



3. 合併により3つの行政が集約されれば**職員の専門職化**が可能となり、より**きめ細かな住民サービス**の提供が出来るようになる期待が持てます。より専門的で質の高い住民サービスの提供こそ魅力ある町づくりには欠かせないのです。

以上3点の効果を実現するための手段として合併を推進するという公正無私の心構えで、今後の合併協議会での議論がなされることを皆さんと一緒に注目していきたいと思えます。

●●● 合併に向けての今後のスケジュール ●●●

9月末をめどに約20回の合併協議会が開かれ、28の協定項目すべての合意が取り付けられる予定です。

10月から11月にかけて一市二町すべての地区で住民説明会が開催され十分な説明がなされる予定です。二丈町はその後に合併の可否を問う住民投票が実施される予定です。

なお前原市においての住民投票は合併について市民間で賛否が分かれている状況ではなく、多くの市民が合併賛成の意向であると想定できるので住民投票の必要性はないものと判断し実施しない予定です。

ちなみに実施した場合の経費は1,200万円以上かかる見込みです。

最終的に一市二町それぞれの12月の定例議会において、合併の賛否を問う採決が行われすべての議会で合併賛成が過半数以上となれば合併が成立するわけです。

今後の合併協議会には是非とも傍聴に行きましょう！

◆地域活性化して誇れる前原に！◆

<日本一元気な町はわずか2000人余りの小さな町>

少子高齢化社会が進行し経済が東京に一極集中し、地域間格差が拡大する中、地方都市は年々活力を削ぎ落とされています。このような状況下で今日本で一番元気な町のひとつであろうと思われる町が四国にあります。人口2050人(平成19年6月1日現在)高齢率化はなんと48.3%、しかも町の面積(109.68km²これは前原市とほぼ同じ)の85.6%が山林という過疎と高齢化が同時に進行している四国で一番小さな町、それは徳島県の上勝町という所です。この町のサクセスストーリーはテレビ、雑誌等で何度も取り上げられ報道されましたのでご存知の方もおられると思います。

私も聞いて知ってはいましたけどこの目で確かめるまでは半信半疑でした。

4月の中旬、仲間の1年生議員4人で視察に行きました。上勝町はもともとみかん栽培が町の基幹産業でしたが、昭和56年2月マイナス13度という異常寒波に襲われ、特産のみかん・すだちが壊滅的な打撃を受けた時からこのサクセスストーリーは始まったのです。

典型的な中山間地で平地はごくわずか、大部分が斜面地で多くの棚田も見受けられました。

悪条件を幾重にも背負いながらこの上勝町は見事に大変身したのです。当然のことながら途中紆余曲折の試練を経験しながらも、今では若者や団塊の世代を中心にUターンやIターン現象で町の人口は増加の傾向にあるそうです。何をして町を活性化したのでしょうか？

葉っぱを売って過疎の町をどん底から再生し、町の人口の2倍にあたる約4,000人もの人々がこの上勝町に視察に来るまでになったのです。

日本料理には欠かせない葉っぱや花を「つまもの」として商品化したのです。

柿・南天・笹・もみじなどの葉っぱや梅・桃・桜などの季節ごとの花等約320種類もの「つまもの」を出荷して、今では70代、80代のおばあちゃんたちがパソコンを使いながら年間の売上高がなんと2億6,000万円に達したというのです。この視察を通じて多くのものを学びました。

中でも一番印象に残っているのは85歳を過ぎたおばあちゃん



パソコンで日々の売上げや売れ筋を確認するおばあちゃん